

## 資料1 アンケート調査票



(2) 平均年齢

技術系職員の平均年齢を過去3年間分ご記入下さい。

(例: 46歳)

平成15年度	平成14年度	平成13年度
歳	歳	歳

1.3 予算

(1) 予算額

貴機関の過去3年間の年間予算額を各環境分野ごとにご記入下さい。

環境分野		平成15年度 (千円)	平成14年度 (千円)	平成13年度 (千円)
研究費	地域環境 (大気、水質、騒音、悪臭等に関する環境調査、環境アセスメント等)			
	廃棄物・リサイクル			
	自然環境 (生態系、野生生物の種の保存等)			
	地球環境 (酸性雨、温暖化等)			
	その他			
研究費以外の事業費				
合計				

(2) 予算構成比

平成14年度予算の財源構成比についてご記入下さい(合計100%として下さい)。国庫支出、その他の機関からの委託については、支障のない範囲で、委託件名、補助金名、機関名、金額等をご記入下さい。

記入例	独自財源	国庫支出		その他の機関からの委託	合計
		委託	補助		
構成比	80%	10%	5%	5%	100%
	%	%	%	%	100%

国庫委託

省庁名称	委託件名	金額(千円)

国庫補助

省庁名称	補助件名	金額(千円)

その他の機関からの委託

その他の機関名称	委託件名	金額(千円)

(3) 研究内容別予算

平成14年度の研究テーマ・研究内容について、関わる研究者数、予算をご記入下さい。また、それぞれの予算が「一括」して措置したのかテーマごとに措置したものに を付けて下さい。「一括」予算とは、複数の研究をまとめて予算措置したものを意味します。

研究テーマ・研究内容	研究者数(人)	予算額(千円)	一括/テーマごと
			一括/テーマごと

1.4 所管部署

貴機関を所管する行政部局の部署名をご記入下さい。

局・部	課・室
-----	-----

上記の部署以外で業務上のつながりが強い部署があればご記入下さい。[3つまで]

局・部	課・室
局・部	課・室
局・部	課・室

## 2 業務の内容について

### 2.1 業務の範囲

各環境分野について、業務の種類ごとにその割合（目安としては、関係する研究員の総労働時間）を概算（5%単位）でご記入下さい。各業務の内容は下記の定義とします。

モニタリング	：調査、検査、常時監視等の業務
解析	：モニタリング結果と他の要素（発生源分布、気象など）との因果関係分析、シミュレーション等の業務等
研究	：査読を受ける専門学会誌等に投稿する論文をまとめるもの、行政施策に必要なもの（研究所内の研究年報に掲載される）等
技術開発・実証	：具体的技術の開発またはその実証

環境分野	業務量の割合（%）				
	モニタリング	解析	研究	技術開発・実証	その他
例	85	5	0	5	5
地域環境 （大気、水質、騒音、悪臭等に関する環境調査、環境アセスメント等）					
廃棄物・リサイクル					
自然環境 （生態系、野生生物の種の保存等）					
地球環境 （酸性雨、温暖化等）					
その他					

### 2.2 その他の活動内容

2.1の業務以外で貴機関が行っている活動についてご記入下さい。[該当するものに、アンダーライン部分に数値等を記入して下さい。]

- ア ホームページによる情報提供（\_\_\_\_\_ヶ月に1回情報更新）
- イ 広報誌の発行（年\_\_\_\_\_回発行、発行部数\_\_\_\_\_部）
- ウ 施設の公開・見学会の開催  
 常時公開（年間来訪者約\_\_\_\_\_名）  
 定期公開（年\_\_\_\_\_回開催、年間来訪者約\_\_\_\_\_名）
- エ 普及啓発活動  
 教育機関への講師派遣（年\_\_\_\_\_回派遣）  
 NPO等の開催するセミナー等への講師派遣（年\_\_\_\_\_回派遣）  
 その他（\_\_\_\_\_）
- オ 研究発表会、セミナー等の開催  
 一般公開のもの（年\_\_\_\_\_回開催）  
 一般非公開（関係者限り）のもの（年\_\_\_\_\_回開催）
- カ 対外交流  
 大学等からの学生の受け入れ（年\_\_\_\_\_名受け入れ）  
 大学等との共同研究（大学等名：\_\_\_\_\_）  
 国際協力  
 ・ JICA 研究生の受け入れ（年\_\_\_\_\_名）  
 ・ 海外への人材派遣（国名：\_\_\_\_\_）  
 ・ その他（\_\_\_\_\_）

## 2.3 他機関との連携

他機関との連携（共同研究、技術提携、共同事業、人事交流等）の状況についてご記入下さい。連携内容欄には、貴機関の役割分担がわかるようにご記入下さい。

番号	研究機関名称	連携内容
例1	国立環境研究所	共同研究の実施（ の採水・分析業務）
例2	県環境研究所	酸性雨調査（観測・分析業務）
例3	（同じ県）農業試験場	自然生態系の調査
例4	中国環境科学研究院	共同研究の実施（ のシミュレーション）
1		
2		
3		

## 3 外部評価の制度について

### 3.1 評価制度の有無

貴機関に対する外部評価の制度はありますか。[ア～ウのひとつに ]

ア ある

イ ない

ウ 導入される予定がある。

3.2へ

4（6ページ）へ

### 3.2 評価の内容

#### (1) 評価主体

評価を行う主体はどのようなものですか。[ア～ウのひとつに ]

ア 機関外部の有識者から構成される委員会組織

イ 機関に関係のない第三者機関（調査会社、NPO等）

ウ その他（\_\_\_\_\_）

#### (2) 評価対象

評価対象は何ですか。[該当するものすべてに ]

ア 機関そのもの

イ 機関特定の業務（\_\_\_\_\_）

ウ その他（\_\_\_\_\_）

### 3.3 外部評価の結果

評価結果について、具体的にご記入下さい。また、評価報告書等があれば、一部お送り下さい。

#### 4 成功事例（セールスポイント、PR 事項、ノウハウ等）について

##### 4.1 貴機関の事例

貴機関の研究成果が行政施策に反映された事項、先進的に行っている事項、工夫を行って以前より改善した事項等の成功事例について、具体的内容とうまくいった理由、苦心した点をご記入下さい。また、それらの具体的内容や成果が分かる資料があれば、お送り下さい。

<p>内容</p>	<p>例1： の分析機械が陳腐化していた。 省の補助金を使用して、最新の機械を導入した。これにより高精度の分析ができるようになり、県の新たな環境保全目標を作成することができるようになった。</p> <p>例2：温暖化防止に対する県民の意識高揚のため、県と連携し環境教育計画を策定した。当研究所では啓発資料の作成および県民向けのセミナーを主催し好評を博した。その後、セミナーは定例行事となっている。</p>
<p>うまくいった理由</p>	<p>例1：日ごろから県を通じて、補助金に関する情報を収集していたため、すぐに申請の行動に移せた。</p> <p>例2：過去にアンケート調査を行ったことがあり、県民のニーズの把握ができていたため、必要とされる情報をわかりやすく提供することができた。</p> <p>使用した補助金等：</p>
<p>苦心した点</p>	

#### 4.2 他都道府県市の地環研の事例

他都道府県市の地環研の研究について、参考としたい、優れている、特徴的であるとお考えになる事例について、機関名とその具体的内容についてご記入下さい。

機関名	内容
例： 県環境研究所	例：地元の環境研究に関し、地元メーカ、分析会社等複数企業と研究会を組織し、共同研究の推進、成果の共有を行っている。

5 貴機関における課題、問題点等について

貴機関において、「活性化」、「今後のありかた」等について検討された資料や報告書があれば、最新版を一部お送り下さい。また、現在（あるいは近い将来）貴機関の課題や問題になっていることがあれば、必要な解決策とあわせてご記入下さい。

課題や問題点	例：研究員の高齢化に伴い、技術やノウハウの伝承が難しくなっている。
必要な解決策	例：ルーチンワークは標準化を行いマニュアルを作成している。

6 貴機関の望ましい姿について

貴機関の望ましい姿（今後実施したい分野、内容、方向性等）についてお考えをご記入下さい。また、そのために必要な施策もあわせてご記入下さい。

- 例 1 { 望ましい姿：当機関のミッションは、条例で設立目的が定められているとおり、            を行うことであり、今後  
          も引き続きこれを行っていく。  
          必要な施策：特に必要なことはない。
- 例 2 { 望ましい姿：            の技術開発に関して、地元中小企業と共同開発を行ってきており、着実な成果を上げてきて  
          いる。この分野はわが国の            分野におけるキーテクノロジーであり、地場産業発展のためにも  
          戦略的な意味がある。当研究所は、この分野で実証実験開発を支援し、中小企業に対する支援を  
          行っていく。  
          必要な施策：            分野の技術者を充実させる必要がある。
- 例 3 { 望ましい姿：酸性雨は当地域において深刻化しており、地球環境問題として県民の関心も高い。当研究所では、  
          でモニタリングを行っており、データを蓄積してきている。今後も引き続き監視を行い、酸  
          性雨に関する総合情報センターと位置づけられ、情報提供、対策指導を行っていきたい。  
          必要な施策：観測施設の充実・人的スタッフが必要である。
- 例 4 { 望ましい姿：当研究所では            について国立環境研究所と継続的に共同研究をしてきており、            という成果  
          がある。この成果は国内でもトップレベルである。このような地域に根ざした研究は重要であり、  
          当研究所としてもこの分野の研究を充実していきたい。  
          必要な施策：研究者の人事交流、研究に関する費用の充実を望みたい。

望ましい姿	
必要な事項	

ご協力ありがとうございました。